

農業情報処理技術競技大会指導講評

教諭 川島 一秀（群馬県立伊勢崎興陽高等学校）

情報処理技術競技は、農業情報処理に関する技能向上を目指して行われています。本大会で出題された問題が授業の中でも教材として活用され、履修している生徒の技能向上につながることを願っています。

本大会は本年度から会場を前橋市内にある東日本デザイン&コンピュータ専門学校で行いました。学校以外の会場で行うことによって、参加校が全ての面で平等な条件で大会運営が可能となりました。会場をご提供いただいた日本デザイン&コンピュータ専門学校関係者皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

この大会で入賞するためには、従来は「データの入力スピード」がカギとなっていました。そのことは、情報を処理して分析する能力よりも、文字を早く打ち込む能力が評価される時代だったのです。もちろん、情報を早く処理するために「入力スピード」を高めることは必要条件かも知れませんが、十分条件ではありません。情報処理能力を評価するには、本来、「どのように処理するかを考え、判断して、表現する能力」が試されるべきです。現在では、出題された問題を適切に理解し、与えられた処理を行うことを評価しています。

右下の図は平成 24 年度以降の大会得点推移を示したものです。平成 24 年度の平均点を基準にみると、得点が下降傾向にあります。問題の難易度を少しずつ高めているため、各校の技能向上が追いつけていないことが分かります。その結果として、平均点が低下しているのです。

問題の変更点としては、平成 25 年度はグラフ問題に第 2 軸のあるグラフ（図のように右側にも軸目盛のあるグラフ）出題しましたが、これは全国大会の基準に合わせたものです。平成 26 年度は表計算のデータを手入力するのではなく、「商業動態統計調査」のデータからコピー&ペーストして処理する問題にしました。そして、27 年度は農林統計データから引用する際に、関数「VLOOKUP」を使って効率よく作表できるかを確認しました。全体の 1/3（入賞ライン）に相当する 10 名程度の生徒が VLOOKUP 関数を使えると予想しましたが、VLOOKUP を使った生徒は 2 名だけでした。また、時間内に印刷設定までを行えなかったために入賞を逃した生徒もいました。「問題をよく読む」ことや「説明をしっかりと聞く」などといったことは、普段からしっかりと身に付けて欲しいと思います。

各平均点（左側軸）は、情報知識 32.6 点（前年比-17 点/100 点満点）、表計算 75.8 点（-81.8/500 点満点）、グラフ作成 15.5 点（-7.7/200 点満点）、考察文書 4.5 点（-14.3/200 点満点）、合計点 128.4 点（-120.8/1000 点満点）でした。合計点（右側軸）が前年の半分程度という結果になってしまったため、入賞ボーダーは昨年度の 300 点から 200 点に下がりました。

来年度の本大会に出場を考えている生徒諸君は、全商「情報処理検定 2 級」に合格できる技能の習得を目指して日々の授業や放課後の活動を頑張ってください。

